

レンとロッキー合流へ

飼育員は見たべあ！

のぼりべつ
クマ牧場通信
93号

2025年
3月1日

発行

のぼりべつ
クマ牧場
動物課



レスリング中のレン(左)とロッキー(右)＝昨年12月

バックヤードでは、別々の獣舎で暮らしていたレン(13歳・オス)とロッキー(15歳・オス)を、昨年11月頃から合流・同居させています。

この2頭は昨年5月頃から合流練習を進めていたのですが、発情期(6月)には落ち着きがなくなってしまうたり、秋の食い込み時期にもケンカをしてしまったりで、何度か合流の中断を繰り返していました。今回11月に合流練習を再開し、ようやく同居に至りました。

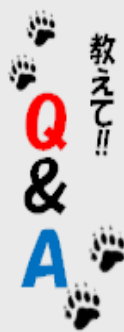
当初、レンは持ち前の器の大きさでロッキーを温かく受け入れていたのですが、ロッキーは自分よりも体の大きなレンを嫌がって、「ヴー」と低い声で唸っていました。ロッキーはレンのいる獣舎に入ろうとしなかったり、逆に自分のいる獣舎にレンが入ろうとすると、威嚇して追いだしたりすることもありました。なかなか同居は上手くいかず、合流練習は難航を極めました。

しかし、段階を踏みながら何度も練習を行うことで、次第にケンカすることなく同じ空間で餌を食べられるようになりました。時折レスリングをしてじゃれあう様子も見られるようになったため、同じ獣舎で生活ができそうだと判断し、無事合流が完了しました。

今でも少しよそよそしい雰囲気は

ありますが、徐々に関係を深めていきます。いつの日か2頭仲良く丸まって眠る姿が見られないかと、飼育員一同楽しみにして見守っています。

教えて!!



○ペンネーム 匿名希望

Q 分野は違いますが、生き物を育てる仕事に携わっています。やりがいなどあれば教えてください。

A 普段から動物達のことを考えているだけで楽しいですが、その動物たちに対してより良い飼育環境を用意してあげられるように考え、実践することにやりがいを感じます。

例えば、「遊んでくれるだろう」と思っていたエンリッチメント器具(おもちゃみたいなもの)でも、動物達は全く使わないことがあったりします。その結果から、次に試してみる器具を考えたり与え方を変えてみると、試行錯誤をしていることが楽しいです!



作製したエンリッチメント器具導入時の様子＝2月26日

オスグマの冬ごもり

今冬、バックヤードのオスグマに対して、初めて「ワラ」を導入した冬ごもり誘導を行いました。これまで長期の絶食を伴った冬ごもりはメスグマでしか行っておらず、オスグマは冬の間も時々餌を食べ、日中も起きている個体が多い状態でした。野生下ではオスメス問わず冬ごもりを行います。クマ牧場でも野生に近い環境を与えたいと、オスグマにもワラを使って冬ごもり誘導を実施しました。



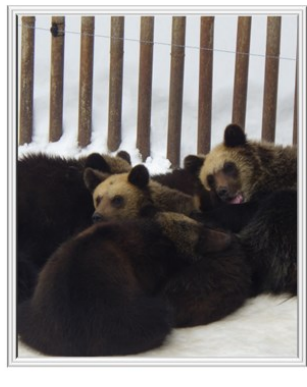
ワラの上でくつろぐツララ(右)とメルル(左) = 2月6日

今月の一収

何頭だ?

集まりすぎて

分からない



巢材となるワラを入れると、すぐにワラを前足で掻き集めたり、口に入れてみたりと様々な反応が見られました。次第にワラの形を丸く整え、丸まって眠る姿が確認できました。しかし、メスグマは飼育員が近くを通っても寝ていることが多いのですが、オスグマは少しの物音で起きる様子が見られました。昼間はワラの上で丸まった状態でのんびり過ごし、夕方になると眠りだす個体が多い点で、雌雄に微妙な違いがありました。オスグマの冬ごもりは、まだ新たな発見の余地がありそうです。



ワラで寝床を作り眠るコテツ = 2月1日

巨大雪像づくり!

今年もアヒルレース場の前に大きなクマの雪像を作製しました。

のぼりべつクマ牧場での雪像づくりは、今回で20回目になります。製作期間は約2週間でしたが、今年は降雪量が少なかつたため、雪を集めることから始まりました。

まず初めに除雪機で雪を集め、大きな雪山を作ります。できた雪山からスコップで、クマの形を削りだしていきました。今年は日中の気温上昇が続いたため、その日の作業が終わる夕方に雪像に水をかけ、夜間の冷え込みで表面を凍らせることで頑丈な雪像に仕上げました。また、途中で大雪が降り、雪像が埋まってしまいうアクシデントもありましたが、なんとか無事に完成しました。とても手間暇かけて作製したので、完成を迎えてとても達成感がありました。毎年この時期に作製しているので、是非ご来場のうえ御覧ください。

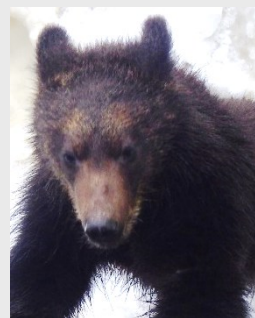


完成した巨大な雪像

= 2月15日

※注：溶けてきたら取り壊します

きゅのくまさん



ルイ(1)

母マロン、父トッキーの間に誕生したクマを紹介します。

2024年1月23日生まれ。名前は一般公募により、フランス語で「戦士」という意味を持つ「ルイ」と命名。

ルイは成長するにつれ、両親に非常に顔が似てきました。双子の兄弟であるアシリに比べると、好奇心旺盛な性格です。何事にも興味を持ち、放飼場へ出た際には隣の群れのクマたちに積極的に近づき、仲良くなるうとしていきます。

身体も大きくなってきて日々成長を感じますが、飼育員が獣舎の前を通ると勢いよく駆け寄ってくる無邪気な姿は、まだまだ子グマです。第一牧場の将来のボス候補として、今後の成長に期待しています!



「雪穴にすっぽりピリカ」

撮影者：飼育員I